

「備えあれば憂いなし」「念には念を入れ」「イタリアよ！ありがとう！」－イタリア・ボローニャ、ベニス珍道記－

清水 泰生

去年（2015年）の6月のある日、偶然、日本語教育学会 HP を見ていたら、私の専門分野の日本語学のコンピューターのデータベースに関する国際会議（ワークショップ「Construction of Digital Resources for Learning Japanese（日本語教育のためのデジタルリソース構築）」）をみつけた。開催地は、ボローニャ大学か。その時、その大学が、ヨーロッパ最古の大学であることが頭に浮かんで、行ってみる価値があると思い、発表のエントリーをした。ついでにその会議の前後にレースがないのかなと思った。マラソンやロードレースを出るのも私のスポーツ文化の研究、スポーツ言語をする上で大切なこと、つまり仕事である。あった。あった。ベニスマラソンが…。これは「一石二鳥」だと思い、採択通知をいただいたときにベニスマラソン 10 キロの部にエントリーした。

2015年10月20日23時15分に関西空港を出発、ドーハーを經由、現地時間14時40分、ベニスのマルコポーロ空港に着いた。20時間以上かかっていたイタリアだったが、往復すべて込みで航空運賃 6 万円台でしかも食事等豪華だったので仕方がないと思った。メレスト駅へ行くリムジンバスが分からず市バスでメレスト駅へ、そこからイタリア高速鉄道「イタロ」に乗って、ボローニャへ、ネットでチケットを買った方が安いのとイタリアの鉄道のチケット購入がややこしいので、「備えあれば憂いなし」と思い、事前にネットで購入した。そのおかげでスムーズに列車に乗ってボローニャへ。そして、無事にゲストハウスに着くことができた。22日翌日、ボローニャから研究発表の地、ボローニャ大学翻訳学部あるフォルリ（キャンパス）へ、そして、フォルリ駅から家族で経営している宿舎へ向かった。宿舎の管理人の男性の方は気さくな人で、いかにもイタリア人みたいであった。部屋は安いにもかかわらず、快適であった。しばらくしてから近くの公園でランニングをしたが、肌寒かった。北イタリアなので大阪と1か月くらい季節が早いような気がした。

そして翌日23日、朝10時に宿舎を出て会場へ向かったが、会場の建物を間違えて、図書館付近をうろうろしてしまった。「念には念を入れて」しっかり HP に出ている地図を見ればよかったのにと少し悔やんだ。図書館の前のベンチのある空き地でタバコを吸う学生が目についた。意外と喫煙者が多いなと思った。何とか会場に到着。翻訳学部の先生を通して『研究社日本語口語辞典』『教育とことわざ』等を大学に献本。そして14時30分に会議が始まった。

今回の私の発表（Japanese language textbooks for events – "the Tokyo Olympics 2020 Japanese conversation textbook" as an example）は、プリンストンでのオリンピック教材をさらに発展させ、オリンピックなどのイベント日本語、観光日本語の教材やその基礎と

なる言語資料のデジタル、データベース化の重要性を主張したものであったが、英語はあまり得意ではないので、冷や汗をかきながら、何とか質疑応答を終えた。ほかの発表も終わり第一日目が終了。夜、懇親会だったがボローニャの宿に向かう列車の切符を取っていたため、時間の都合で懇親会には出られなかった。翌日24日も会議があったがどうしてもメストレ、サンジュリアーノ公園にあるベニスマラソンの受付でナンバーカードを取りに行かなければならず、会議には出ず、その日の12時台の高速鉄道「イタロ」に乗ってメレスレに向かった。そして、メストレ、サンジュリアーノ公園でナンバーカードと長袖のシャツ、そしてプログラムをもらった。袋の中に缶ビールが入っていてびっくり。日本では考えられないことであった。やはり文化が違う。そして翌日25日、7時に宿舎を出て、会場行きのバスに乗り10キロの部スタート地点（メストレ、サンジュリアーノ公園）で、スタート地点で広島から来た人と談笑、彼がトイレに行っている間に参加者が多くなり、彼とは、はぐれてしまった。そして8時30分スタート。スタート地点のメストレ、サンジュリアーノ公園からベニス島に向かって走っていく。ベニス島に向かうリベルタ橋が長さ3850mあって、気がめいているところへイタリア国鉄のかっこいい列車が私の横（と言っても少し離れているが）を追い抜いていった。なかなか絵になる光景だった。そしてベニス島に入るとそこはもう水の都であった。横に運河、そして石畳の道。中世にタイムスリップした気分であった。グランドカナル、サンマルコ広場を通過してゴール。タイムはよくなかったが景色がこの上にないほどすばらしく、気持ちよく走れた。ゴールのあと少し休んでからバスの駐車場まで水上高速ボートで移動した。水しぶきが何とも言えなかった。

バスに乗って宿舎の近くで降りて、ホテルの前に来たとき、ホテルの前がなんとフルマラソンの部のコースの一部であった。多くのランナーが走り抜けている。日本と違ってロープなどであまり仕切っていない。ランナーと応援している人との一体感があった。私はその沿道で、最終ランナーまで応援した。

そして次の日26日14時40分発の飛行機で、ベニスをたち、大阪へ向かった。

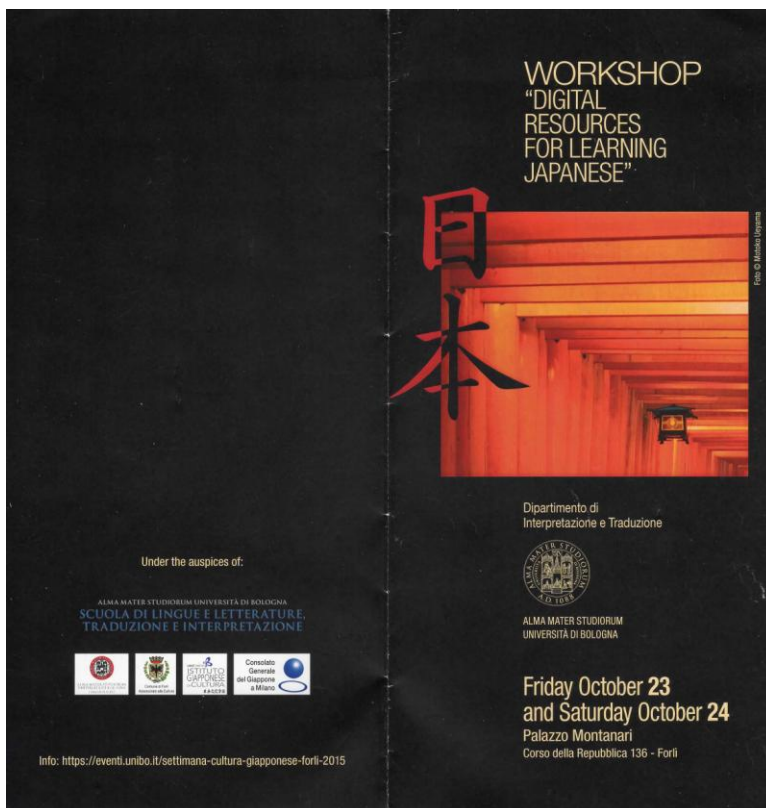
イタリアでパスタを期待していたが、パスタの店が見つからず、ピザ屋でピザばかり食べていたが本場のピザは安くて量が多く、そしてうまかった。そして、やはり、街角には自動販売機がなかった。だから、缶ジュースを全く飲めなかった。しかし、なぜか、体の調子がよく、日本に帰ってからも極力缶ジュース飲まないようにしていたら、ランナーに適した体に戻り、走るスピードもサブ3を達成したときのスピードに戻った。「イタリアよ、健康管理のヒントをくれてありがとう」（笑）と心から感謝している。

この国際会議（ワークショップ「Construction of Digital Resources for Learning Japanese（日本語教育のためのデジタルリソース構築）」）

のHPは <https://events.unibo.it/dit-workshop-japanese-digital-resources> である。



ベニスマラソンゴール（ベニス、リヴァ・セツテ・マルティリ）付近



国際会議のパンフレットの表紙

以 上